

令和8年度 事業計画



社会福祉法人よこた福祉会

よこた福祉会事業計画

1. 法人の経営理念

私達は、介護を必要とするすべての人びとが尊厳をもって、安心して自立した生活ができるよう支援するために、豊かな感性と使命感をもって邁進し、地域福祉の進展に寄与するとともに、働く喜びを共感できる組織づくりを目指す。

○ 社訓 誠実・信頼・挑戦

○ 職員としての基本姿勢

1. 使命感をもつ。

福祉とは何か、利用者の満足とは何かを考え、使命感を持って地域社会に役立つ。

2. 誠実に努力する。

プロとしての自覚と、誇りを持つ。

3. 自己啓発に努める。

個性豊かな感性をみがき、仕事を創造しよう。

4. 判断力を養う。

よく考えて行動し、協働の意識を持って対応しよう。

5. 人生観をもつ。

自分の目標を持ち、逆境に立ち向かう力をつけよう。

6. 感謝と反省を忘れない。

お客様に感謝し、反省を次に活かせるように努めよう。

7. 微笑みを絶やさない。

どんなときでも、どんな相手にも、心のこもったスマイルでいよう。

2. 法人本部・企画部

<基本方針>

医療・介護を取り巻く環境は毎年大きな変化をしている。地域医療と共に開設以来当法人の事業を支え続けて頂いた永生クリニック(医療法人社団信愛会)は、町立の診療所になることとなった。関係機関のどこもがマンパワー不足の状態であるからこそ、今までよりも更に効率的で効果的な連携の在り方を探っていかなければならない。

また、改めて地域住民への介護保険制度等の普及に力を入れ、介護の状況に合わせ予防から看取りまで安心して利用して頂けるサービスの供給をどのように再構築するか、他の機関と共に考え、方向を導き出していく。

法人の経営理念を基に、全役職員が倫理要領を常に意識し、地域に真に必要とされる組織づくりに努める。

<重点項目>

1. 事業運営を安定して継続する組織づくり

(1) 状況や情勢を見極め、役職員での協議を進める

(2) 積極的に関係機関との協議を行い、課題解決に努める

(3) 今後のサービス基盤についての研究・意見集約を行う

2. 人材（人財）の確保と育成
 - (1)人材（人財）確保に向けた取組の継続
 - (2)資格取得に向けたサポートの実施と評価
 - (3)健全な職場づくりと職員の処遇改善を継続
3. 地域包括ケアの推進
 - (1)行政や医療機関との効率的な連携方法と情報交換の見直し
 - (2)町内事業所間での情報交換を積極的に行う
 - (3)利用者・家族等との意見交換やアンケートの実施
4. 地域に向けた社会福祉法人としての活動
 - (1)ホームページや広報「孫子老」等による情報発信
 - (2)孫子老サポート隊として福祉教育や地域の健康・介護に関する活動を継続
 - (3)“孫子老まつり”の実施

<事業内容>

1. 理事会の開催（理事 8名 監事 2名）
 - (1) 6月 前年度事業報告、決算の審議 等
 - (2) 12月 補正予算の審議 等
 - (3) 3月 補正予算、次年度事業計画・予算の審議 等
2. 評議員会の開催（評議員 10名）
 - (1) 6月 前年度事業報告、決算の承認
 - (2) 3月 次年度事業計画・予算の承認 等
3. 評議員選任・解任委員会
 - (1) 評議員選任・解任の審議
4. 役員の活動事業
 - (1) 役員研修会
 - (2) 理事・監事による事業所及び施設評価の実施
5. 苦情相談員（オンブズマン）委員会
 - (1) 委員会の開催及び活動方法の協議
 - (2) 法人内外への活動状況の発信
 - (2) 福祉サービス苦情解決研修会への参加
6. 第三者評価委員会
 - (1) 専門職による評価受検、意見交換
7. 受託事業
 - (1) 総合事業・通所型サービス（ねむの会） 毎週火曜日
 - (2) 通所型短期集中予防サービス事業 毎週月・木曜日
8. 法人内定例会議
 - (1) よこた福祉会防災担当者会
 - (2) よこた福祉会虐待防止委員会
 - (3) よこた福祉会身体拘束廃止委員会
 - (4) よこた福祉会事故防止対策委員会
 - (5) よこた福祉会感染症予防対策委員会
 - (6) よこた福祉会給食委員会

9. 備品整備等計画

(1) むらくも苑

- ・リクライニング車いす 1台
- ・処置車 1台

3. 介護老人福祉施設むらくも苑（定員 67 名） よこた福祉会短期入所生活介護事業所（定員 11 名）

<基本方針>

介護老人福祉施設むらくも苑は、利用者の生活の安全と人権擁護に配慮し、一人ひとりのニーズと意思を尊重し、安心・安全なサービスを展開していく。

また、高齢者が穏やかな生活が出来るよう、優しく豊かな心をもって、誠実に且つ信頼ある介護の拠点施設として地域社会に貢献していく。

<重点項目及び事業内容>

1. 利用者の目線に立った介護と良質なサービスの提供

- (1) 多職種検討会議を実施し、ご本人の意思や身体状態に合わせた対応や生活環境を整え、個別ケアを充実していく。
- (2) 多職種連携により利用者の健康管理を行いながら異常の早期発見に努め、早期対応を図ることで重症化を防ぐ。
- (3) 褥瘡予防対策委員会において利用者に対し、褥瘡予防及び発生後の対応並びに再発防止対策等を検討し、快適な生活を継続できるよう支援していく。
- (4) 年間を通して、感染症等の状況を見ながら創意工夫し、利用者・家族の面会や自宅外出等のニーズに応えていく。
- (5) 看取り介護に関する方針に沿って、介護・看護・栄養・嘱託医との連携を強化する。
 - ア) 生前意向を確認しながら、最後までその人らしく生活して頂けるよう利用者・家族の意向に添って取り組む。
 - イ) 看取り専用居室を活用し、利用者一人一人に合った環境を整えていく。
- (6) 栄養マネジメントを継続し、委託会社と協議を図りながら季節感や嗜好を尊重した食事の提供を行う。
- (7) 協力歯科医院との協働により、利用者の口腔衛生の適切な管理を行う。
- (8) 利用者の有する能力を最大限に活かした生活リハビリを実践し、豊かな日常生活が送れるよう取り組む。
- (9) 福祉用具推進委員会が中心となり福祉用具の導入検討や使用方法の周知等、利用者、家族共に安楽で安全なケア提供を実践する。
- (10) 利用者の心身の状態に合わせた適切な場所で穏やかな生活が送れるよう他関係者、医療機関との連携を強化する。

2. 地域のニーズや現状に沿ったサービス提供に向け、業務の評価や改善を実施

- (1) 業務改善委員会では入院しないケアを目標とし、各役割と目的を明確にした専門的なケアに努める。
- (2) ショートステイの多様なニーズに対応し、柔軟な受け入れに努める。
- (3) 業務改善を継続する中で、より効率的な業務遂行のため ICT の導入に向けた調査と検討を進めていく。
- (4) 記録ソフト導入後の業務改善評価を行い、利用者ケアに反映できるような記録ソフトの更なる活用を見出していく。
- (5) LIFE 導入後のフィードバックデータの活用と新たな加算取得へ向けた調査と検討を行う。

3. 社訓に基づく職員資質の向上
 - (1) サービスの基本である接遇マナー(挨拶・笑顔・丁寧な言葉づかい・気配り・心配り)の更なる向上に努める。
 - (2) 第三者評価・第三者委員・サービス自己評価等の結果を活用し積極的な改善に取り組む。
 - (3) 職員は、それぞれの職種や役割が発揮できるようお互いを理解し合い、チーム内の連携に努める。
 - (4) 多岐にわたるハラスメントの理解と未然防止の為、働き方や職場環境、職員の多様な考え方の把握と尊重に努め、施設が取り組むべき姿勢を明確化する。
 - (5) 施設内外の虐待を未然に防止するため、マニュアルに基づいた取り組みを強化する。また倫理要領に従い良質で適切なサービス提供を行う。
4. 職員のモチベーションアップとお互いを認め、成長し合える職場作りに取り組む
 - (1) 職員は、専門職としての自覚を持ち、個々で掲げた目標のもと自己研鑽に努める。
 - (2) 内部・外部研修へ積極的に参加し、個々の能力開発・技能習得に挑戦する。
 - (3) 新入職員の育成を充実させていくために、マニュアルを再検討していく。
5. リスクマネジメントによる利用者への安心・安全な生活の支援
 - (1) ヒヤリハットメモを活用し、発生した事故の分析・評価を行い事故防止に努める。
 - (2) 「新型インフルエンザ等発生時における業務継続計画」に基づき適切な感染症対応に努める。
 - (3) 身体拘束廃止マニュアルに基づき、全職種が共通認識を持って継続的な廃止に取り組む。
 - (4) 施設内外の虐待を未然に防止するため、マニュアルに基づいた取り組みを強化する。
 - (5) 利用者の安全が確保できるよう防犯・防火意識を高め、訓練には積極的に参加し、有事に備える。
 - (6) 自然災害発生時には、「自然災害発生時における業務継続計画」に従い、必要なサービス提供に努めるとともに、防災訓練への参加や実施により有事の際の利用者等の安全確保と早期復旧に備える。
 - (7) 苦情に対して、誠意ある態度で真摯に受け止め、改善・解決に向けて取り組む。
 - (8) 職員は個人情報適切に取扱い、利用者・家族の同意を得ない限り第三者に提供しない。
6. 短期入所生活(予防含む)介護事業の充実とニーズに沿った適切なサービスの提供
 - (1) 担当の介護支援専門員や利用している在宅サービスとの連携を継続する。
 - (2) 緊急的な短期入所の受け入れを継続する。
 - (3) 利用者・家族が安心して生活できる場所を提供する。
7. 地域貢献としての地域との積極的な交流
 - (1) 活動環境の整備を行い、地域・企業等ボランティアの受け入れや地元小中学校及び学生の実習受け入れ等積極的に行い福祉教育を推進する。
 - (2) 施設備品等支障のない範囲での貸出や相談に応じていく。
 - (3) ホームページ等を活用し、仕事の魅力を発信していく。
8. 関係機関との連携
 - (1) 奥出雲町地域ケア多職種連携会議
 - (2) 指定協力医療機関と連携体制の構築

4. デイサービスセンターほのぼの（地域密着型）（定員 18 名）

<基本方針>

デイサービスセンターほのぼのは、利用者が住み慣れた地域でその人らしく安心して自立した生活が継続できるよう、心身機能の安定を図り、家族や関係機関と連携し支援していく。

また、今後の事業の方向性について、利用者・家族・地域のニーズを把握し営業日等の事業内容の見直しを検討し、これからも地域に必要とされる事業所として努めていく。

<重点項目及び事業内容>

1. 利用者のニーズに沿ったサービスの提供
 - (1) 個別援助計画及び個別機能訓練に沿ってサービスを提供し、評価を実施する。
 - (2) サービス内容の見直しを行い、利用者が満足できるサービス提供に努める。
 - (3) 認知症予防の取り組みに力を入れ、過ごしやすい環境づくりとケアの充実を図る。
 - (4) ボランティアの依頼や受け入れを積極的に行い、地域との関りを持ち充実したサービス提供に努める。また、研修生等の受け入れを行い地元の福祉教育の場としての役割を果たす。
 - (5) 関係機関と連携を図り、利用者・家族・地域のニーズの調査を進め、事業内容の検討に努める。
2. チームワークと資質の向上
 - (1) 社訓や基本姿勢を基に、質の高いサービス提供を目指す。
 - (2) 内部、外部研修会への積極的な参加や事業所内勉強会の実施により自己研鑽に努める。
 - (3) 気づきを共有してコミュニケーションを図り、働きやすい環境を作る。
 - (4) チーム目標をもとに自己評価を行い、目標達成を目指す。
 - (5) サービス評価の実施により業務改善に努める。
3. リスクマネジメントの取り組みによる安心・安全なサービス提供
 - (1) ヒヤリハットを活用し事故状況の分析・評価を行い事故防止に努める。
 - (2) 事故や利用者の急変時には、マニュアルに従い迅速に対応する。
 - (3) 苦情や相談を真摯に受け止め、迅速に問題の解決・改善に努める。
 - (4) 自然災害発生時には、「自然災害発生時における業務継続計画」に従い、必要なサービス提供に努めるとともに、防災訓練への参加や実施により有事の際の利用者の安全確保に備える。
 - (5) 個人情報の取り扱いについて、人権に配慮したサービス提供を徹底する。
 - (6) 身体拘束廃止、虐待防止について共通認識を持ちマニュアルに基づき取り組む。
 - (7) 車両運行前後に酒気帯び確認と車両点検を行い、安全運転に心がける。
4. 感染症予防対策の取り組みによる発症及び蔓延防止
 - (1) 感染症の発症時は「新型インフルエンザ等発生時における業務継続計画」等に従い、適切な対応に努める。
 - (2) 職員や利用者の健康管理（検温、手洗い、消毒、マスクの着用等）を徹底する。
 - (3) 利用者や家族へ感染症の情報提供を行い、感染予防に努める。
5. 家族との信頼関係を大切にサービス提供
 - (1) 日々の情報交換や相談、要望に応じより良い関係づくりに努める。
 - (2) 広報紙を発行し、サービス内容や介護等に関する情報提供を行う。
 - (3) 介護者教室を開催し、介護者同士の情報交換の場を提供する。

6. 行政及び各関係機関との連携

- (1) 運営推進会議等の会議を通して関係機関と連携を図り、事業内容等について検討を行う。
- (2) サービス担当者会議

5. デイサービスセンターにここ（地域密着型）（定員 18 名）

<基本方針>

デイサービスセンターにここは、地域と共に歩んでいける事業所として、運営推進会議や第三者評価での意見、課題を考慮した業務改善に努め、サービスの充実を図る。

また、認知症ケアの充実に加え家族へ相談の機会を増やし、様々な環境のもと住み慣れた地域で安心して生活が営めるよう関係機関と連携し支援していく。

<重点項目及び事業内容>

1. 利用者のニーズに沿ったサービス提供

- (1) 個別援助計画及び個別機能訓練計画に沿ってサービスを提供し、評価を実施する。
- (2) サービス内容の見直しを行い、利用者が満足できるサービス提供に努める。
- (3) 認知症利用者のケアを充実させ、安心して過ごせる対応や環境作りにより笑顔を引き出す。
- (4) ボランティアの依頼や受け入れを積極的に行い、地域との関わりを持ち充実したサービス提供に努める。また、研修生等の受け入れを行い地元の福祉教育の場としての役割を果たす。

2. チームワークと資質の向上

- (1) 社訓や基本姿勢を忘れず、質の高いサービス提供に努める。
- (2) チーム目標・個人目標に基づいた取り組みに努め、目標達成を図る。
- (3) 内部、外部研修に積極的に参加し、個々の知識・技術の習得に努める。
- (4) 報告・連絡・相談を確実にを行い、チームで情報の共有を図る。
- (5) サービス評価事業の実施により業務改善やサービス内容の変更にも努める。

3. リスクマネジメントの取り組みによる安心・安全なサービス提供

- (1) ヒヤリハット及び事故報告の評価・分析を行い事故防止に努める。
- (2) 事故や利用者の急変時には、マニュアルに従い迅速に対応する。
- (3) 苦情や相談を真摯に受け止め、迅速に問題の解決・改善に努める。
- (4) 自然災害発生時には「自然災害発生時における業務継続計画」に従い、必要なサービス提供に努めるとともに、防災訓練への参加や実施により有事の際の利用者の安全確保に備える。
- (5) 個人情報取り扱いについて、人権に配慮したサービス提供を徹底する。
- (6) 身体拘束廃止、虐待防止について共通認識を持ちマニュアルに基づき取り組む。
- (7) 車両運行前後に酒気帯び確認と車両点検を行い、安全運転に心がける。

4. 感染症予防対策の取り組みによる発生及び蔓延防止

- (1) 感染症の発生時は、「新型インフルエンザ等発生時における業務継続計画」等に従い、適切な対応を行う。
- (2) 職員や利用者の健康管理（検温、手洗い、消毒、マスクの着用等）を徹底する。
- (3) 利用者や家族へ感染症の情報提供を行い感染症予防に努める。

5. 家族との信頼関係を大切にサービス提供

- (1) 日々の情報交換や交流の機会を通して、より良い関係づくりに努める。
- (2) 利用者や家族へ向けて広報誌の発行を行う。
- (3) 介護者教室を開催し、介護者同士の情報交換の場を提供する。

6. 行政及び各関係機関との連携

- (1) 運営推進会議等を通じて関係機関と連携を図り、事業内容等について検討を行う。
- (2) サービス担当者会議

6. 介護予防・日常生活支援総合事業 通所型サービス ねむの会

<基本方針>

ねむの会は、利用者に対し運動機能、栄養改善、口腔機能、その他（認知症予防）の各プログラムを実施し、介護予防を図りながら自立した生活が送れるよう努める。

また、行政及び地域の関係機関と連携を図り、新規利用者の確保に向けた広報活動にも力を入れていきたい。

<重点項目及び事業内容>

1. 利用者のニーズに沿った満足のいくサービス提供
 - (1) 業務改善やサービス内容の見直しを行い、利用者が満足できるサービス提供に努める。
2. チームワークと資質の向上
 - (1) 専門職としての自覚を持ち、日々自己研鑽に努める。
 - (2) 内部、外部研修に積極的に参加し、知識・技術の習得を図る。
3. リスクマネジメントへの取り組み
 - (1) ヒヤリハット及び事故報告の評価・分析を行い事故防止に努める。
 - (2) 事故や利用者の急変時には、マニュアルに従い迅速に対応する。
 - (3) 苦情に対して、マニュアルに従い迅速に対応する。
 - (4) 自然災害発生時には「自然災害発生時における業務継続計画」に従い、必要なサービス提供に努めるとともに、防災訓練への参加や実施により有事の際の利用者の安全確保に備える。
 - (5) 個人情報、プライバシー、人権に配慮したサービス提供の徹底。
 - (6) 車両運行前後に酒気帯び確認と車両点検を行い、安全運転に心がける。
4. 感染症予防対策の取り組みによる発生及び蔓延防止
 - (1) 感染症の発生時は、「新型インフルエンザ等発生時における業務継続計画」等に従い、適切な対応を行う。
 - (2) 職員や利用者の健康管理（検温、手洗い、消毒、マスクの着用等）を徹底する。
 - (3) 利用者や家族へ感染症の情報提供を行い感染症予防に努める。
5. 行政及び各関係機関との連携
 - (1) 介護予防・日常生活支援総合事業連絡会への参加。
 - (2) 関係機関と協力し事業の広報活動に努める。

7. 通所型短期集中予防サービス事業

<基本方針>

令和 8 年度より一般介護予防事業短期集中リハビリは、通所型短期集中予防サービスへと移行する。サービス内容に大きな変動はないが、これからも利用者本人の目標達成に向けた取り組みや生活の質が向上できるリハビリを展開していく。

また、関係機関と連携を図り新規利用者の確保に向けた広報活動に力を入れていく。

<重点項目>

1. 初回訪問による状態把握と目標設定（アセスメント）
2. リハビリテーションの実施と評価。
3. 運動機能、生活動作等に関する相談、助言。
4. 新規利用者の確保に向けた地域への広報活動。
5. 終了者のフォローアップを行い、地域の集いの場（ねむの会等）へ繋げる支援活動。
6. スタッフ会議や連携会議等、関係機関と協力し事業の充実を図る。

8. ヘルパーステーションたんぼぼ

<基本方針>

利用者が住み慣れた地域で尊厳を持って、自分らしい生活を続けられるよう支援すると共に、介護を担う家族の負担軽減を図り仕事と介護の両立を支える。また、利用者の心身状況や生活環境を踏まえ、残存機能を活かせるよう促し、生活意欲の維持・向上を目指す。

地域の医療・福祉サービスの変化が続く中で、関係機関との連携を密に図りニーズに沿った適切なサービス提供に努める。

<重要項目及び事業内容>

1. 利用者個々のニーズ及び家族の意向に沿ったサービスの提供
 - (1) ケアプランに沿った訪問介護計画の作成と実施。
 - (2) サービスの評価・見直しの実施。(月一回)
 - (3) 常に利用者や介護者の視点に立ったサービス提供に努める。
 - (4) 関係各機関との連携を図り、柔軟且つ専門性を生かした対応を行う。
 - ・サービス担当者会議
 - ・退院前カンファレンス
2. サービス内容の充実(質の確保・向上)
 - (1) 訪問介護計画に基づき作成した手順書に従い、統一したサービス提供を行う。
 - (2) 訪問介護計画に沿った記録・評価・見直しを行い、心身状況の変化に応じた適切なサービスを提供する。
 - (3) 個別サービスの充実に努め、認知機能及び心身機能の維持に繋げる。
 - (4) 研修会や勉強会を実施し、介護に必要な知識と技術の習得及び接遇マナーの向上を図る。
 - (5) 諸会議に参加し、情報の収集に努める。
 - ・法人本部事業内容に記載の諸会議
 - (6) 関係各機関との連携を図る。
 - ・奥出雲町地域ケア多職種連携会議
 - ・雲南地域訪問介護協議会
 - (7) 虐待防止及び身体拘束廃止への取り組みを継続する。
 - (8) チーム目標・個人目標に基づく自己評価を行い達成に努める。
 - (9) サービス評価を行い事業の改善に努める。
3. 守秘義務
 - (1) 法人の個人情報保護規程の遵守。
 - (2) 業務を離れた場面でも訪問介護員としての自覚を持った言動を行う。
4. 家族との連携
 - (1) サービス内容や訪問介護員の対応等についての要望等を聴取し、サービスの改善に努める。
 - (2) 介護に関する悩み等の相談に応じ、必要な助言及び指導を行う。
 - (3) 連絡ノートや電話等を活用し、利用者の心身の状況等について必要な情報提供を行う。
5. リスクマネジメントへの取り組み
 - (1) 事故や利用者の急変等には、マニュアルに沿った適切且つ迅速な対応を行う。
 - (2) 自然災害発生時には、「自然災害発生時における業務継続計画」に従い、必要なサービス

提供に努める。

- ・業務継続計画に沿った勉強会を実施する。
- ・業務継続計画の見直しを行う。

(3) 訪問中及び訪問前後に予測しうる危険にも十分に配慮したサービスの提供に努める。

(4) 苦情に対し迅速且つ適切に誠意を持って対応し、改善に努める。

(5) ヒヤリハット及び事故報告の評価・分析を行い、事故や再発の防止に努める。

(6) 感染症予防

- ・マニュアルに沿った対応を徹底し、感染症予防を行う。
- ・利用者や家族の人権に配慮した対応を心がける。
- ・感染症発生時には「新型インフルエンザ等発生時における業務継続計画」等に従い、必要なサービスの提供に努める。
- ・業務継続計画に沿った勉強会を実施する。
- ・業務継続計画の見直しを行う。
- ・状況に応じマニュアルの見直し整備を行う。
- ・感染予防への啓発・普及に努める。
- ・職員自らの健康管理及び衛生管理に努める。

(7) 衛生管理

- ・マニュアルに基づいた食品の取り扱いを行い、食中毒を防止する。

(8) 車両の点検と安全運転に努める。

- ・運行日誌を基に日常の点検を実施し、車両の不備には速やかな対応を行う。
- ・時間に余裕を持った行動を心がけ、事故防止に努める。
- ・交通法規に基づいた安全でやさしい運転マナーに努める。
- ・アルコールチェッカーを使用し、車両運行前後の酒気帯び確認を行う。

6. 啓発活動

(1) ホームページ及び法人広報誌による情報の発信。

- ・利用者のプライバシーに配慮する。
- ・職員ブログを活用し、訪問介護の仕事への関心を高める。

(2) 法人内行事や地域行事等への参加を通し、訪問介護への理解や関心を高める。

9. よこた福祉会居宅介護支援事業所

<基本方針>

近年、町内においても利用者を取り巻く環境の複雑化や支援対象者の広がりを見せる状況となっているが、利用者が住み慣れた地域で自立した生活が継続出来る様に、十分な意向確認を行い、医療・行政等、関係機関との連携強化を図り、地域資源や介護保険外の制度も活用したマネジメント業務に繋げ、居宅サービス計画及び介護予防サービス計画の作成にあたる。

また、介護者の就労割合やIT技術の利用率が増加している状況から、当事業所においても介護者の利便性を図る取り組みを試行的に行うとともに、自然災害や感染症等の有事の際に事業継続が可能となるように、事業継続計画を基に平常時からリモートワーク等によりリスクを分散した業務を実施する。

<重点項目及び事業内容>

1. 居宅サービス計画の作成

- (1) 適切なアセスメントにより課題分析を行い、利用者等の意向に沿った居宅サービス計画、介護予防サービス計画を作成する。
- (2) 居宅訪問等により利用者に面会し身体状態、生活状況を専門的に把握する。

2. モニタリングの実施

- (1) モニタリングにより経過を把握し、結果を適切に記録する。
- (2) 居宅サービス事業所、主治医等と情報交換を行い適切なモニタリングを実施する。

3. 権利擁護

- (1) 利用者等の人権擁護、虐待防止、身体拘束廃止を図るため、諸制度の利用を支援する。

4. 個人情報の保護

- (1) 利用者等に関する個人情報は、使用目的を明確にした上で同意を取り用いる。

5. 利用者、家族への情報提供

- (1) 当該地域における居宅サービス事業所名簿やパンフレットにより、利用者等に適切な情報を提供する。
- (2) サービス種類、内容、料金、各サービスにおける利用割合等、分かりやすい説明を行い、利用者が自己決定出来る様に公正中立に支援する。
- (3) 介護保険外の制度やインフォーマルサービスを把握し情報提供や説明を行う。

6. 居宅介護支援事業所の評価及び課題分析

- (1) 第三者評価及び自己評価により課題、問題点を把握し改善する。
- (2) 月間報告を作成し分析を行い、利用情報の動向を把握する。
- (3) 利用者等の苦情、要望に対し、迅速に対応しサービスの質の改善、向上に繋げる。

7. 関係機関との協力体制

- (1) 居宅支援事業運営のための連携
 - ・雲南地区居宅介護支援事業所協議会
 - ・奥出雲町地域ケア多職種連携会議
- (2) 居宅サービス計画のための会議及び連携
 - ・サービス担当者会議
 - ・自立支援型地域ケア会議（事例検討会）
 - ・共同事例検討会（町内3居宅介護支援事業所共同勉強会）

- ・主治医等、医療関係者との連携
- ・地域包括支援センター及び福祉事務所、社会福祉協議会との連携
- ・民生児童委員との連携
- ・インフォーマルサービス関係者との連携

8. 介護支援専門員としての資質向上

- (1) 法人内外の研修会へ積極的に参加し自己研鑽に努め、意見発表、研究発表の機会を持つ。
- (2) 事業所内においてケース検討を行い居宅サービス計画の充実を図る。
- (3) 苦情対応を迅速に行うと共に介護支援専門員として適切に対応する。
- (4) 緊急時対応マニュアルに沿い迅速且つ適切な措置をとる。
- (5) 他法人との合同事例検討会。
- (6) 高齢者以外の対象者への支援に関する事例検討会、研修会。

9. 介護保険における認定調査等の円滑な実施

- (1) 調査項目を把握し認定調査基準に沿って公正中立な調査を行う。
- (2) 利用者の認定期間や身体状況の変化を把握し、介護認定（更新、変更）申請代行等の必要な援助を行う。
- (3) 相談支援時に新規申請代行等の必要な支援を行う。

10. 地域への福祉活動、情報発信及び人材養成、育成への取り組み

- (1) 孫子老サポート隊を通じた事業実施。
- (2) パンフレットの活用、ホームページでの情報発信。
- (3) 介護支援専門員実務研修受講者への支援。

11. 業務継続計画への取り組み

- (1) 非常時に備え利用者の緊急連絡先を管理、定期的な見直しを行う。
- (2) 奥出雲町ハザードマップの確認及び災害発生に備えた関係機関との協議。
- (3) 法人感染症対策の遵守。
- (4) 業務継続のためリモートワーク等の実践を行う。
- (5) 事業継続計画の見直し。

